

聖霊降臨節第3主日

<p>朝第1礼拝 9:00~10:10 朝第2礼拝 10:30~11:50</p> <p>〈神の招き〉 前奏 ②父なる神よ、我らのもとにとどまり給え <small>ブクステフーデ</small></p> <p>招きの詞 エゼキエル書36:26~28 交読詩編 69:17~22 讚美歌 3</p> <p>〈神の言葉〉 聖書 創世記7:1~5 <small>(旧約 新共同訳 9頁)</small> エフェソの信徒への手紙4:25~32 祈禱 <small>(新約 新共同訳 357頁)</small> 讚美歌 353 説教 「新しい生き方」 祈禱 <small>熊江秀一牧師</small> 黙想 讚美歌 523</p> <p>〈神への応答〉 信仰告白 献金 主の祈り 宣教報告② 頌栄 28 派遣と祝福 後奏 ②ああ神よ主よ <small>ブクステフーデ</small> 宣教報告①</p>	<p>夕礼拝 18:00~19:10</p> <p>〈神の招き〉 前奏 来ませ聖霊、主なる神 <small>アルムズドルフ</small> 招きの詞 エゼキエル書36:26~28 交読詩編 69:17~22 讚美歌 216</p> <p>〈神の言葉〉 聖書 歴代誌下15:1~8 <small>(旧約 新共同訳 689頁)</small> 使徒言行録4:13~31 祈禱 <small>(新約 新共同訳 219頁)</small> 讚美歌 157 説教 「大胆に御言葉を語る」 祈禱 <small>甲賀正彦伝道師</small> 黙想 讚美歌 440</p> <p>〈神への応答〉 信仰告白 献金 主の祈り 宣教報告 頌栄 28 派遣と祝福 後奏 来ませ聖霊、主なる神 <small>パツヘルベル</small></p>
--	---

今週の御言葉 |(エフェソの信徒への手紙4:29~30)

悪い言葉を一切口にしてはなりません。ただ、聞く人に恵みが与えられるように、その人を造り上げるのに役立つ言葉を、必要に応じて語りなさい。神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、聖霊により、贖いの日に対して保証されているのです。

次週の礼拝(6月26日)

<p>①9:00、②10:30 説教「イエス・キリストの名によって」 甲賀正彦伝道師 サムエル記上16:14~23、 使徒言行録16:16~24 交読詩編32:1~7 讚美歌129、392、464、28</p>	<p>夕礼拝18:00 説教「世に出ていく教会」 熊江秀一牧師 詩編51:12~15、 使徒言行録3:1~10 交読詩編32:1~7 讚美歌3、56、403、28</p>
---	---

■今週の祈禱課題■ 独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。

1. キリストの体なる教会が豊かに形成される為に 2. 東日本大震災等の被災者の為に
3. 伝道師就任式の為に 4. 日本基督教団創立記念日(24日)の為に
5. ウクライナと世界の平和の為に 6. 新型コロナウイルス感染終息の為に 7. 病気の兄弟の為に

***関東教区お祈りカレンダー** 長岡教会、柏崎伝道所、十日町教会

◇先週の説教より「新しい人を身に着けて」エフェソの信徒への手紙4:17~24、創世記19:16~26 熊江秀一牧師

<p>パウロは異邦人であるエフェソ教会の信徒に「もはや、異邦人と同じように歩んではなりません」と勧める。これは、異邦人のようなかつての神なき生活に戻ってほしくないということである。</p> <p>この勧めは私たちにも語られている。私たちも神から遠い異邦人だった。そんな私たちがただキリストの恵みによって神の民として招き入れられた。しかし私たちが神なき生活に戻るとき、その恵みは失われてしまう。神なき生活を歩む時「愚かな考えに従って歩み」「知性は暗く」なる。知性は神が人に与えた輝かしい賜物である。しかし神を見失う時、知性は暗くなる。20世紀は科学技術が進歩し、知性が輝く時になると思われていた。しかし現実には闇が明らかになった。2度の世界大戦。核兵器の開発。環境破壊。豊かさの中での心の荒廃・・・そしてその結果「神の命から遠く離れて」しまった。</p>	<p>また「無感覚」となり共感の心を失い「放縦」「ふしだら」にふけり、感情と欲望のとりことなった。それは滅びへと向かう道である。だから私たちは「キリストについて聞き」「キリストに結ばれ教えられ」、キリストに神の「真理」があることを学ばねばならない。</p> <p>その中でパウロはエフェソ書のカギ「エン・クリストー」(キリストにおいて)と語る。私たちはキリストにおいて、キリストの恵みの中で、救いが与えられている。私たちはいつもその救いの原点に立ち戻る。</p> <p>救いの恵みに生きる者は「古い人を脱ぎ捨て」「心の底から新たにされて、新しい人を身に着け」た人である。それはキリストを着ることであり、具体的には、洗礼による恵みの出来事である。私たちはキリストを着た新しい人として命の道へ歩み、共に信仰の旅を歩もう。</p>
--	--